

こんにちは
健保組合です！

水野運輸株式会社 の巻

(千葉市中央区)



▲水野浩利社長

ついでに……

約六〇年にわたり取引先との

良好な信頼関係を継続

最初の話題は、当組合の現況報告に始まり、続いて水野運輸の社史について伺いました。

同社は、昭和二十六年十一月に設立され、設立当時は、畳の配送を手がけられました。昭和四十四年十一月に本社を現所在地に移転し、その後、昭和六十二年十二月には、観光や各種送迎などを担う、ミズノ興業有限公司(水野謙一社長・当組合の第四代理理事長として功績を残され、現在は特別顧問です)を設立し、グループ一丸となつて顧客のニーズに対応されてきました。

主な業務内容は、千葉市美浜区にある千葉製粉株式会社で取り扱う小麦粉などをローリー(粒粉体運搬車)で全国の食品工場に配送すること、その取り引きは約六〇年にも及ぶとのこと。

「誠を持って人に接する」、「和を持って事にあたる」、「魂を持って志を貫く」を社是に、誠心誠意業

をおかしいと感じたときはそのまま放置せず、早めに病院に行き検査を受けるなど、疾病の早期発見、早期治療に努められています。経営には、私たちが想像する以上の責任や重圧があると思いません。これからもどうか無理をなさらないようお願いいたします！

予定の時間もあつという間に過ぎ、無事取材を終えることとなりました。お忙しいなか、水野社長をはじめ従業員の皆さん、ご協力ありがとうございました。

★ ★ ★

折しも、明日は啓蟄(けいちつ)です。私たちが明るい明日を望むように、厳しい冬をじつと堪えた虫たちがはい出てくる日です。希望と喜びに満ちた春の到来はきつと間近ですよ！

本誌が皆さんのお手元に届くころは春本番を迎え、行動を起こすには絶好の季節です。メタボ解消のためにも……？

身近にできる運動から始めてみてはいかがでしょうか？

の営業距離が世界一の長さであり、ギネスブックに登録されているそうです。

今回の目的地は、今季の活躍が期待されるサッカーJリーグのジエフユナイテッド市原・千葉のホームグラウンド「フクダ電子アリーナ」からほど近いところにあります。「こんにちはは健保組合です！」と事務所を訪ねると、水野社長と従業員の方々に温かく迎えていただき、応接室に案内され取材が始まりました。水野社長は、第八期組合会議員として当組合の健全なる事業運営にご尽力くださ

と比べて六%削減するための国民的プロジェクト「チーム・マイナス六%」の活動に積極的に参加しています。

同社のさまざまな取り組みは、従業員みずから実践して行うもので、水野社長は、「私のいちばんの仕事は、優れた人材を見つけること、その人のよいところを最大限に発揮させること」と断言されました。私たちのトラック業界は、他の業界と比較すると人の出入りが多い職種ではありますが、同社の従業員は定着率も高く、天職として働く方も多いそうです。

水野社長の人選と従業員一人ひとりの能力が絶妙にマッチすることで、同社がますます発展されることを祈念いたします。

最後に、健康管理やふだんから気をつけていることについて伺いました。

水野社長は、若いころは、季節を問わずサーフィンをされましたが、現在の趣味はゴルフとのこと、昨年から本格的に練習に励まれています。

また、ご自身の体調が少しでも

アメリカのサブプライムローン問題に端を発し、依然として先が見えない世界的経済危機に、株価の下落や企業の倒産、消費の低迷、雇用問題などが新聞・テレビなどで毎日大きく取り上げられています。一方、次期政権奪取に向けて、永田町では政局絡みの攻防が日々続いています。

暗いニュースばかりが飛び交う昨今、次の日本の舵取りはどうなるのか、私たちにとって非常に關心のあるところですが、「明けな夜はない」ことを信じて、「主役は国民」を忘れず、明るい国造りを政治家の皆さんには期待するところ。

★ ★ ★

務に取り組んでこられた結果、取引先からの絶大な信用を得て、良好な関係を構築し、現在の地位を確立されたものと私たちは確信いたしました。

独自の運輸安全

マネジメントシステムを構築

トラック業界を取り巻く環境

二月の暖かさが嘘のように、前日のひな祭りには首都圏でも雪が舞い、一段の冷え込みとなった三月四日、事業所訪問の第五回目としてお邪魔したのは、千葉市中央区に所在する水野運輸株式会社(水野浩利社長)でした。

私たちが訪れた千葉市は、平成四年四月に全国一二番目の政令指定都市としてスタートしました。市内中央には工業施設をはじめとする企業や大規模な住宅地が多くある一方、花見川区、若葉区、緑区などの周辺部には自然が多く残されている街です。市内中央に整備された千葉都市モノレールは、雨や雪などの天候の影響を受けやすい懸垂型モノレールとしては、そ

は、原油高の高騰や環境への配慮など、依然として厳しい状況が続いています。水野社長に、コスト管理や従業員への指導内容、環境問題への取り組みを伺いました。

同社では、早期にデジタルタコグラフを全車両に設置し、安全運転管理、経済走行管理の下に、事故や燃料費の削減につなげまし



た。また、定期的に安全会議やスタッフ会議を開催するとともに、同社独自の運輸安全マネジメントシステムを構築し、「方針↓実行↓内部監査↓行動」のスパイラルを維持することで、輸送の安

全性をより向上させます。

環境問題については、排ガス除去装置の取り付けや、夏にスポットクーラー、冬には蓄熱ヒーターを車両に設備するなど、アイドリングストップを実現しています。また、二酸化炭素などの温室効果ガス排出量の削減を、一九九〇年



▲ローリー (粒粉体運搬車)